

〔編集後記〕

『社会科学ジャーナル』第34号をお届けします。

本第34号で、大変遅れ気味であったジャーナルの出版がようやく通常通りになりました。前任者から宿題を引き継いで就任した所長として、安堵の胸をなでおろしているところです。

さて本号は、ベテランの研究者に加わって、新たに本学に着任された若手研究者の力作3本を収めています。各執筆者の研究テーマは多彩かつ独創的で、いずれも本学のリベラルアーツ教育の精神にふさわしいものです。

また最近では、大学院生を含む若手の方々からの論文投稿の問い合わせや申込みも徐々に増え、編集委員会はこれを歓迎しています。本ジャーナルでは、大学院生、助手等の若手研究者の論稿については、学外の研究者に論文審査をお願いし、論文掲載の可否を検討していただく制度を設けています。近い将来において、この厳しい審査を経て若いエネルギー溢れる論文もご紹介できるのでと楽しみにしております。

本号も前号同様に、研究所がスポンサーした数多くの講演会の要約を掲載しています。また、本年秋には、上智大学社会正義研究所と共催で「日本とアジア・太平洋—歴史の共有を通じて未来へ」と題して国際シンポジウムを三鷹市公会堂で開催する予定です。日本のアジア・太平洋における自己確認と、共生を求める未来への展望を志向し、関連分野の学者、言論人から提言してもらい、また市民の声にも耳を傾ける貴重な機会とし、シンポジウムの模様とその成果を国内外に広く発信することを目的としています。このシンポジウムの成果も何らかの形で皆様に報告したいと考えています。

(功 刀 達 朗 記)